

# 外来生物とは

社東京都ベストコントロール協会 理事 田中 生男

最近、東京でそれまで見たことがなかった動物や昆虫を見かけることはありませんか。

例えば日本の国蝶に指定されているオオムラサキの仲間のアカホシゴマダラという蝶。これは昭和35年発行の図鑑では「現在のところ奄美大島のみで生息が知られる」とあります。この蝶はエノキなどの植物を食草にしていますが、2年前に筆者の住まい付近(川崎市)の数カ所のエノキで採集した幼虫は、すべてアカホシゴマダラでした。関東でももう普通に見られるようになっていました。

これはほんの一例ですが、以前は九州以南にしか見られなかった生物が東京近辺でもよく見かけるようになりました。恐らく、このような傾向は一般には温暖化の影響が大きいと思われませんが、アカホシゴマダラなどは明らかに人為的に放逐されたといわれています。

\* \* \*

外来生物とは、もともと生息していた地域から、生息していなかった地域に入ってきて、いわば市民権を獲得してしまった種を指しているのです。上に例示した種も東京では外来生物と言えるのですが、渡り鳥や海流に乗って移動する魚類などは外来生物とは言いませんので、飛翔する昆虫類などは微妙なところですね。最近自然保護遺産に指定された小笠原諸島にある西島、ここではそれまで固有亜種とされていたハシナガウグイスがクマネズミの横行によって絶滅していたようですが、クマネズミ駆除によって再び戻ってきたこと

が報告されています。クマネズミは古代に日本に侵入したと考えられますが、小笠原諸島では最近になって船で運ばれる荷物と一緒に侵入した外来種です。このように外国起源の生物は現在わかっているだけでも2,000種ほどにもなると考えられています。かなり古い時期から日本に定着してしまった生物では、それがもともと日本のものなのか、そうではないのか分からなくなっているものも多いと考えられます。

\* \* \*

もう一つ外来種の中に帰化種と呼ばれるグループがあります。一般に外来種のうちでも、もともたいた生物を脅かすことなく定着して生息している種を帰化種と呼び、自然環境に大きな影響を与えて生物の多様性を脅かす種を、とくに侵略的外来種と呼んでいるようです。もっともこのような区別はそれほど明確ではなく、在来種に全く影響を及ぼさない種などないかもしれません。考えて見れば私たちも遠い昔にアフリカから来たようですから、日本の土地では外来種ということになるのでしょうか。

\* \* \*

さて、環境省では外来生物法という法律を制定して、外来生物がもともとの生態系を壊してしまうのを防ぐため、明治時代以降に海外から日本に入ってきた種を中心に、やたらに「入れない」、「捨てない」、「拡げない」ことを目標に扱いに対する規制を設けています。

一方、最近、新聞紙上などで、本来、日本には住んでいるはずのない生物が発見され、警察などが捕らえたという記事をしばしば見かけます。たまたまペットとして飼っていたサソリやヘビなどの動物が逃げ出して捕獲されるというのは、その場限りの問題ですが、アライグマやカミツキガメ、セアカゴケグモ、アルゼンチンアリなどのように、すでに定着してしまった動物はちょっと厄介です。実はこのような例は植物でも多く見られるのですが、植物の場合、雑種が多くできてしまっているの、どのようになっているのかさえ分からなくなっているようです。

\* \* \*

なぜ、このようなことが起きるのでしょうか。

最近の特徴の一つとして、珍しい動植物を自宅で保有する人が増え、大きくなりすぎたり増えすぎたりして処分に困り、密かに自然界に捨ててしまうというのも大きな理由です。海外から輸入される物資に潜り込んで持ち込まれることもあるでしょう。このような生物は生命力が強く、もともと日本に生息していた種を駆逐したり、農作物などに被害を及ぼしたりしてしまうのです。

\* \* \*

環境省では外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、又は及ぼす恐れのあるものの中から、特定の

種類を「特定外来生物」として指定しています。まだ、実態が明らかではないものも多く、これらは未判定外来生物とされています。

特定外来生物は、生きているものに限られ、その個体だけではなく、卵、種子、器官なども含めています。このような生物がもし自然界に放されて定着してしまうと、人や生態系に取り返しがつかない大きな影響を与えてしまうことがあるので、違反内容によっては、個人でも懲役や数百万円の罰金など非常に重い罰が課せられますので十分に注意して下さい。現在、特定外来生物に指定されている動物は、アライグマ(哺乳類)、ガビチョウ(鳥類)、カミツキガメ(は虫類)、ウシガエル・グリーンアノール(両生類)、カダヤシ・オオクチバス(魚類)、アルゼンチンアリ・セイヨウオオマルハナバチ(昆虫類)など80種以上あります。

在来種、外来生物、帰化種、侵略的外来種、特定外来生物、未判定外来生物などはいずれも人間が生活上の都合から区分しているもので、生物の種類ではありません。長い地球の歴史から考えれば生物の栄枯盛衰や弱肉強食はつきものですが、その地にしか見られない生物は、世界的に見れば大きな財産価値を持っていると言えるでしょう。少なくとも人間の気ままな行動や日常の活動で、このような状況が作り出されないようにしたいものです。

